



一般国道 246 号建設事業に伴う埋蔵文化財の調査

かみかすや いしくらなかい せき 上粕屋・石倉中遺跡

主催 (公財) かながわ考古学財団

共催 伊勢原市教育委員会

きんせい おおやまみち 近世大山道の発見

かみかすや いしくらなかい せき 上粕屋・石倉中遺跡の発掘調査

伊勢原市上粕屋に所在する石倉中遺跡では、一般国道 246 号(厚木秦野道路)建設に伴う発掘調査で江戸時代から縄文時代に至る時代の遺構・遺物が発見されました。

近世の遺構としては大規模な道跡や溝、掘立柱建物跡、竪穴状遺構があります。古墳時代の遺構は、古墳が3基発見されています。縄文時代は現在まだ調査を継続していますが、後期前葉の敷石住居跡や屋外埋甕などが多量の土器とともに発見されています。

これまでの主な発見遺構と出土遺物

——発見遺構——

近世: 道跡、溝、掘立柱建物跡、竪穴状遺構など

古墳時代: 古墳の周溝など

縄文時代: 敷石住居跡、集石など

——出土遺物——

中・近世: 陶磁器など

縄文時代: 縄文土器、石器など



古墳時代遺跡全景

江戸時代(17世紀)大山道の発見

遺跡が所在する場所は、中世から近世を通じ、人々の信仰を集めた大山に向かうための経路上にあたります。平成 23 年に当財団が実施した調査では古代から中世・近世にいたる各時代の道跡が発見されました。今回の調査ではこれらとは別の道跡が発見されました。

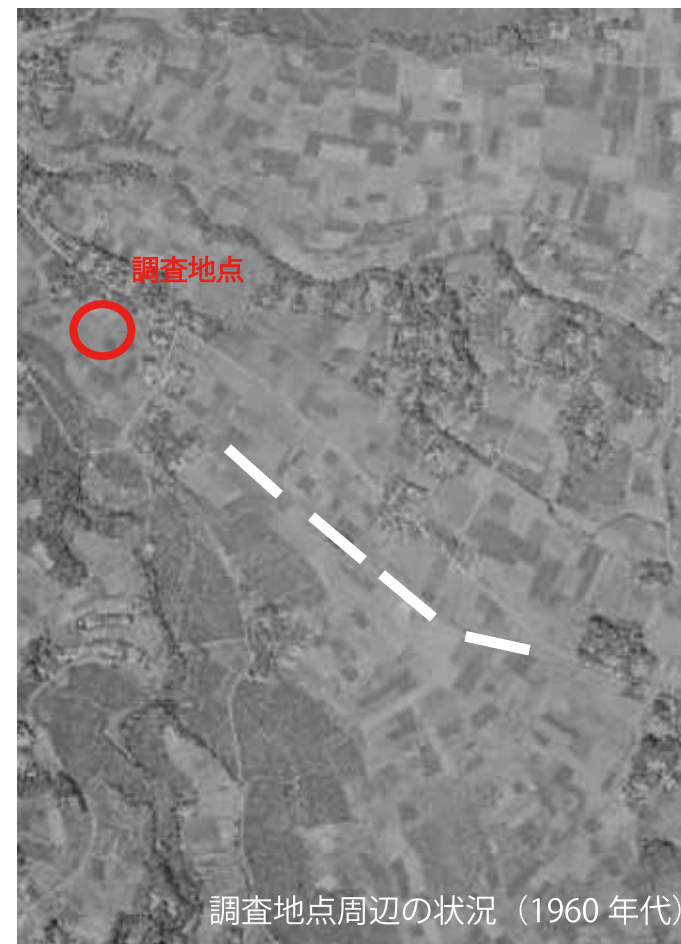
道跡は深さ 1 m の堀割状を呈し、上幅が約 8~10m、下幅が約 4 m あり、堅くなった面が何枚も重なっていました。出土した陶磁器から、江戸時代前半の 17 世紀に使われたものと思われます。また、道が埋まった後に作られた畑の畝に、宝永年間に噴火した富士山の火山灰が被っていたことから、この道は 18 世紀初頭には使われなくなっていたことがわかります。



3号道状遺構



3号道状遺構(深さ)



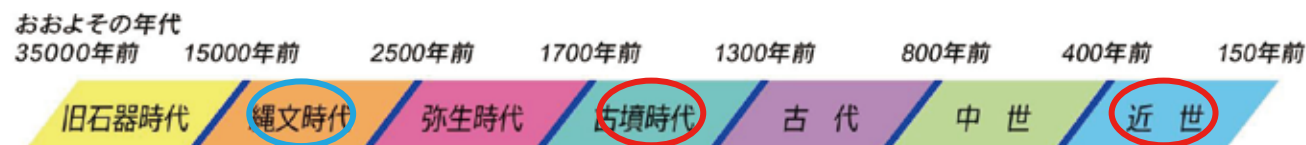
調査地点周辺の状況(1960年代)

1960年代の航空写真

1960 年代の航空写真を見ると、調査区で発見された道の延長線上に、直線上の影を見ることができます(写真の破線部分)。調査区内の道跡につながるものかもしれません。



一般国道 246 号建設事業に伴う
埋蔵文化財の調査
上粕屋・石倉中遺跡(伊勢原市 No.40)
2014 年 3 月 1 日
公益財団法人かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
Tel 045-252-8689 <http://kaf.or.jp/>



赤丸は、今回の調査で発見された遺構・遺物のおおよその時期を示しています。

